【 123 】

氏名	長 谷 川　賢 也
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第3439号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第4条第2項該当）
学位論文題目	Evaluation of Release Surgery for Idiopathic Carpal Tunnel Syndrome: Endoscopic Versus Open Method （特発性手根管症候群に対する手根管開放術の比較～鏡視下法と従来法～）
論文審査委員	教授　田中　紀章　教授　村上　宅郎　教授　清水　信義

学位論文内容の要旨

本研究は、特発性手根管症候群に対する手根管開放術のうち、鏡視下法（Endoscopic Carpal Tunnel Release,以下ECTR）と従来法（Open Carpal Tunnel Release,以下OCTR）とを、その治療成績と医療費について比較検討したものである。ECTR群44名42手、OCTR群40名40手を比較検討した。その結果、治療成績では、術後1カ月ではOCTR群の方が良好であったが、術後3カ月以降では両者に差は見られなかった。医療費および治療日数は、手術施行から仕事に復帰するまでの期間で比較したが、ECTR群はOCTR群の約3分の1であった。手術における安全性では、より侵襲の少ないECTR群のほうが優位と考えられたが、深刻な合併症は、両者ともに見られなかった。ECTRは、手術侵襲、医療費、治療日数では優位であり、治療成績についてもOCTRと同様に良好であり、適応を選び、手技に精通すれば、より有効な治療法である。

論文審査結果の要旨

本研究は、突発性手根管症候群に対する手根管開放術のうち、鏡視下法（Endoscopic Carpal Tunnel Release、以下ECTR）と従来法（Open Carpal Tunnel Release、以下OCTR）とを、その治療成績と医療費について、ECTR群42例、OCTR群40例を比較検討したものである。その結果、治療成績では、術後１ヶ月ではOCTR群の方が良好であったが、術後３カ月以降では両者に差は見られなかった。医療費および治療日数は、ECTR群はOCTR群の約３分の１であった。ECTRは、術後侵襲、医療費、治療日数において優れており、治療成績についてもOCTRと同様に良好であった。

本研究はECTRの有用性を明からにし、その普及に寄与するものと考えられる。よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。